

「田植歌」が、

聞こえていた頃。

その歌は、

豊作祈願の「神事の歌」。

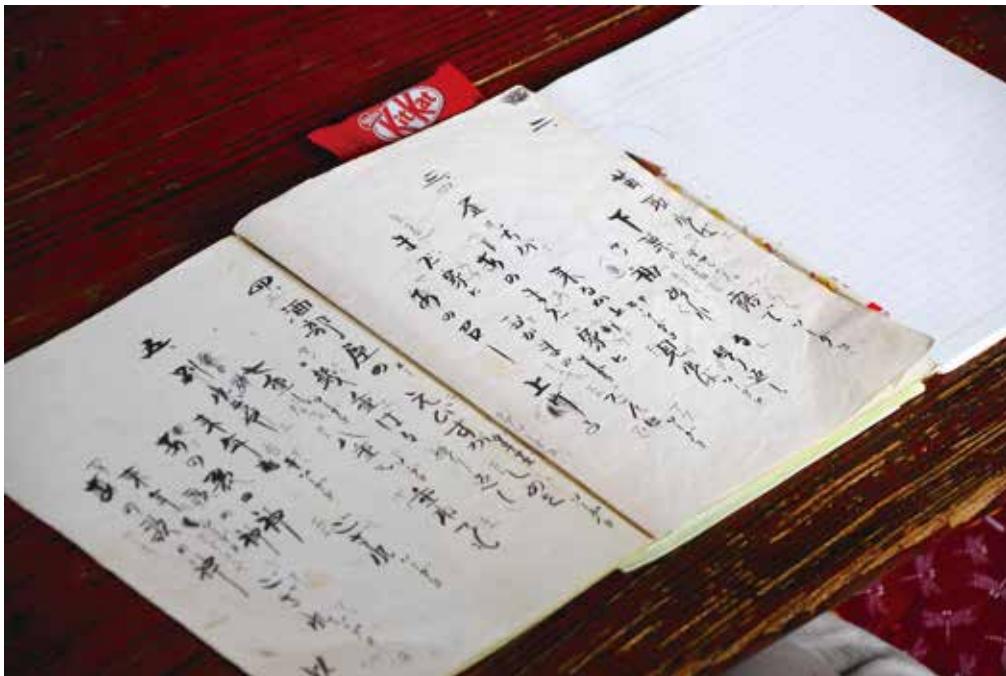
労働のツラさを

まぎらわさせてくれた「仕事歌」。

忘れかけられた「郷土の歌」。

いつの頃からか歌い継がれる

柏山の「田植歌」。



小田原市、柏山。このあたりは

昔から稲作が盛んで、かつては一

円札にその肖像が入っていた小田原

の偉人「二宮尊徳」も、ここ柏山

で生まれ、「積小為大」の精神で、

田植えが終わったあとに捨てられ

た苗を、荒地の水たまりに植えて、

一俵の糲を収穫したという逸話を

残している。

そんな柏山に「田植歌」という、

昔ながらの「仕事歌」が残っている。

いや、正確に言うと、「柏山田植

歌保存会」のみなさんが月に一回

集まって練習をし、小学生の授業

や、市民会館での郷土芸能の催し

などをしながら、細々と守り、残

している、ときちんと言い直した

ほうがいいかもしれない。

「仕事歌」というのは、作業のツ

ラさをまぎらわすために生まれた

歌のこと。「柏山田植歌」は柏山で

いつの頃からか田植えの時に歌い継

がれてきた。月に一回、東柏山公

民館の二階で行われている練習に

お邪魔すると、会長の柏木文子さ

んが「せっかく来てくださったから、

先に一度歌いましょうか?」とこち
らのスケジュールを気づかってくれた。机の上には、歌詞が書かれた
紙とチョコレートのお菓子が置かれ
ている。「いつも通りやつていただき
ていいんです。それを見に来させて
いただいたんですから」とお願ひす
ると、「いつもは、こうして集まつ
ておしゃべりしながら、練習して
の」と、楽しそうに前置きをした後、
とりあえず一度歌うからと、みな
さんで歌つて聞かせてくれた。
*「今日の「田」の「」エ「たろ
じ」の」(エー・タ・チマース)

*「たろじ」は「田主」(たあるじ = 田祭りを主宰する人)のことと思われる。歌詞には、他に田植えの様子や柏山の風景の他、鶴や亀のめでたい動物が読み込まれ、豊作の祈りが込められている。



柏山田植歌の風景